

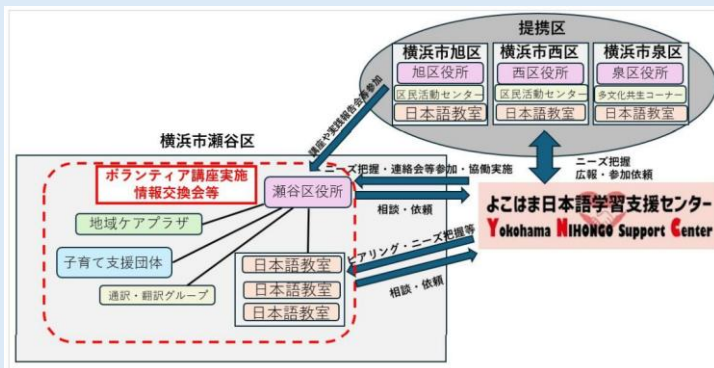


【取組4-5】日本語ボランティア入門講座・ブラッシュアップ講座
(瀬谷区・旭区・西区・泉区)

運営受託:(公財)横浜市国際交流協会

【事業概要・趣旨】

国際交流ラウンジ未設置区である瀬谷区、旭区、西区、泉区において、地域日本語教育の支援体制を整える。今年度は日本語学習支援の担い手育成に重点を置き、事業を実施する。



◆ 事業1 日本語ボランティア入門講座

講師	有田 玲子氏
日時・場所	2025年11月2日(日)・9日(日)・11月23日(日)・11月30日(日) 10時～12時 (全4回) / せやまる・ふれあい館
対象	瀬谷・旭・泉・西区内で日本語ボランティアとして活動したい人、 多文化共生に関心のある人
参加人数	受講者：24人、地域日本語教室・団体：10人 (6教室2団体) 地域日本語教室の学習者：8人

【趣旨】

地域での日本語学習支援に関心がある人が、やさしい日本語や日本語学習支援について学び、今後の日本語学習支援や 外国につながる人との地域での交流につながるよう、日本語ボランティア入門講座を開催する。

【目的・目標】

- ・区内の外国につながる人々の状況を知り、地域日本語教育の基本的な考え方や、やさしい日本語について学ぶことで、ボランティア活動を始めるきっかけとなること。
- ・区内の日本語学習や多文化共生に関する活動が、受講生へと更に広がること。

【実施した事業プログラム内容】

- 第1回 市内の外国につながる方の状況／
当事者の声／日本語ボランティアの役割
- 第2回 支援活動に必要な「やさしい日本語」を学ぼう
- 第3回 日本語を外国語として学習する学習者の視点を知ろう
- 第4回 地域の日本語教室・団体の紹介／
学習者との交流活動に挑戦／講座のまとめ



すごろくを使った、学習者との交流活動

【取組4-5】日本語ボランティア入門講座・ブラッシュアップ講座
(瀬谷区・旭区・西区・泉区)

運営受託:(公財)横浜市国際交流協会



【成果】

講座後、地域の日本語教室等で合計11名の受講者が活動を開始した。(地域日本語教室9名、子育て支援拠点1名、通訳・翻訳グループで1名)すぐにボランティア活動が難しい場合でも、「保育園で一緒になる外国のママに声をかけてみようと思う」「職場でやさしい日本語を使って話すようにしたいと思う」などの声を受講者からあり、講座が外国につながる方とのさらなる交流のきっかけとなった。

その他、対象4区の外国につながる人の状況や、やさしい日本語でのコミュニケーション、学習者との日本語での交流活動について理解を深めてもらうことができた。

【参加者の声】

身近に外国の方が
増えている現実を
知った。

日本語を使って交流
できるのはとても素
敵だなと思った。

相手のニーズや身近な
ことを大切にすること
を忘れずにいたい

【課題】

定員を大きく超えて申し込みがあり、全員の受け入れができなかった。関心のある方が広く日本語ボランティアや多文化共生について知り理解を深められるよう、講座の実施回数や運営形態等の検討が必要である。

◆ 事業2 日本語ボランティアブラッシュアップ講座

講師	日高 嘉恵 氏
日時・場所	2025年12月19日(金) 13時半～15時半 せやまる・ふれあい館
対象	瀬谷・旭・泉・西区で日本語学習支援を行っている人 2025年度に当協会が瀬谷区で実施した日本語ボランティア入門講座受講者
参加人数	受講者8人(活動中の支援者6名、入門講座受講者2名)

【趣旨】

対象区で日本語学習支援をしている人を対象に、日本語ボランティア ブラッシュアップ講座(以下「ブラッシュアップ講座」とする)を開催し、スキルアップの機会を提供する。

【目的・目標】

日本語学習者が生活の中で、コミュニケーションを取りながら、より円滑で豊かな生活ができるような日本語支援についてのヒントを得る。

【取組4-5】日本語ボランティア入門講座・ブラッシュアップ講座
(瀬谷区・旭区・西区・泉区)

運営受託:(公財)横浜市国際交流協会



【実施した事業プログラム内容】

- ・学習者が日本語を学ぶ目的を考える
- ・生活Candoと活動紹介
- ・グループワーク（ビンゴや広告チラシ、パンフレット等、身近な素材を活用した教室活動を考える）
- ・講座のまとめ

チラシを使った
交流型活動の体験

【成果】

- ・買い物や友人を誘ってコンサートへ行く場面で、日本語でどのように会話を広げられるかグループで検討した。各グループ、積極的に意見を出し合いながら、生活Candoを意識した活動案を作成していた。講座中、受講者より「これは支援する際に使える！」「次回の教室活動でやってみよう！」と声があがり、交流型活動の具体的なヒントを得ている様子が見受けられた。
- ・グループワークを行う際、活動場所をはじめ、支援年数、職業に関わらず、様々な背景を持つ受講者同士が協働することで、これまでになかった発想や視点に触れる機会をつくることができた。
- ・講座後の振り返りでは、講師より「受講者の経験年数の幅がありたくさん準備をしたが、グループワークで提示するトピックやCandoによって、経験値に関係なく受講者全員が一緒に取り組むことができる」と気づいた」とコメントがあった。

【参加者の声】

文法を重視せず
「生活Cando」を
重視する視点が
良かった。

基本的なことから
どのように発展してい
けば良いか、ヒントを
たくさん頂いた。

ゲームを通して学ぶ
ことを実践してみたい
と思った。

【課題】


これまで当協会の事業等に関わりのあった教室、及び会場から近い地域からの参加が多い傾向にあった。対象区内の教室と継続的に連絡をとり関係づくりを進めるとともに、状況やニーズに応じた講座内容や実施場所についても検討する必要がある。

◆ 事業3 振り返り会

日時・場所	2026年2月14日(土) 14時～16時 せやまる・ふれあい館
対象	2025年度にYOKEが瀬谷区で実施した日本語ボランティア入門講座・日本語ボランティアブラッシュアップ講座受講者
参加人数	10人（入門講座受講者5人、ブラッシュアップ講座受講者3人、講師2人）

【趣旨】

日本語ボランティア入門講座・ブラッシュアップ講座受講者が集い、活動時の疑問やアイデア等について話し合い、講座のフォローアップを行う。

【取組4-5】日本語ボランティア入門講座・ブラッシュアップ講座
(瀬谷区・旭区・西区・泉区)運営受託:(公財)横浜市国際交流協会 

【目的・目標】

- ・「1. 入門講座」「2. ブラッシュアップ講座」の内容が、対象区内の日本語教室の目的・方針・風土・文化と合っていたか、また、「1. 入門講座」を受講した新規ボランティアの期待と、実際の教室の活動の状況にギャップがないか確認する。
- ・講座内容と教室での実際の活動のギャップを解消するとともに、今後のサポート、フォローアップについて検討する。
- ・地域日本語教室や日本語ボランティアの意義や価値について発信する。

【実施した事業プログラム内容】

- 1 講座報告
- 2 日本語学習支援についての感想、質問の共有
→質問内容についての意見交換、活動アイデアの共有など
- 3 地域日本語教室について学習者・支援者双方の視点から考える
- 4 話し合いを受け、今後やってみたいことを書き出し、共有



各々の質問に対し意見交換

【成果】

- ・講座内容が実際の活動に活かしていることやギャップを参加者から確認することができ、今後の講座内容やフォローアップをする機会を提供できた。
- ・一度教室に参加し、自分に活動は難しいと話していた入門講座受講者が、活動について話し合うことで、「やってみようかな」という思いにつながり、再度教室に参加するサポートができた。
- ・地域日本語教室や日本語ボランティアの活動意義について発信することができた。

【参加者の声】

ボランティア活動に
役立つヒントを
たくさんもらえた

先輩のお話を聞いて、
私も長く活動を
続けたいと思った

ぜひ(いろいろな教室
が集う)意見交換会を
実施してください!

【課題】

- ・参加者が入門講座から5名、ブラッシュアップ講座から3名にとどまっており、参加者以外の状況についても把握をしていく必要がある。

【3つの事業を通して、今後の展望】

- ・国際交流ラウンジがない地域でも、教室や関係団体とのネットワーク構築を進めながら、ニーズに応じた事業や情報交換の機会の充実を図っていききたい。
- ・今回確認できた講座内容と実際の活動のギャップや、新たにボランティアを始めた人の疑問を踏まえ、今後の講座内容の検討をしていきたい。



【取組4-5】日本語ボランティア入門講座・ブラッシュアップ講座(栄区・戸塚区)

運営受託:(公財)横浜市国際交流協会

テーマ	日本語ボランティア講座 ①入門講座 ②ブラッシュアップ講座 ③実践報告会(振り返り会)
講師	嶋田和子氏(①入門講座・ ②ブラッシュアップ講座) ※③実践報告会(ファシリテーターYOKE)
日時・場所	①入門講座:2025年11月26日(水)、12月3日(水)、12月10日(水) (全3回) ②ブラッシュアップ講座:2025年12月22日(月) (全1回) ③実践報告会:2026年2月9日(月) (全1回) 場所:栄区役所 会議室
対象	①入門講座:日本語ボランティアや多文化共生に興味・関心がある方 ②ブラッシュアップ講座:日本語学習支援をしている方 ③実践報告会:入門・ブラッシュアップ講座受講者 (主に栄区・戸塚区在住の方)
参加人数	①入門講座:15人 ②ブラッシュアップ講座:21人 ③実践報告会:5人

【事業概要・趣旨】

地域の日本語学習支援に関心のある方を対象に、多文化共生の視点や外国人住民との関わり方、日本語学習支援の基礎を学ぶ入門講座を実施した。また、すでに地域で活動している支援者向けに、実践力向上を目的としたブラッシュアップ講座を開催した。さらに、両講座の2~3か月後に実践報告会を行い、受講者の振り返りや情報共有・意見交換を通して活動のフォローアップを行った。

【目的・目標】

①入門講座

区内の多文化共生について知り、地域日本語教育の基本的な考え方や日本語学習支援活動について学び、地域の日本語学習支援活動につながることを目的とする。

②ブラッシュアップ講座

地域日本語教育の新しい動きや学習支援活動へのヒントを得ることを目的とする。

③実践報告会

入門講座・ブラッシュアップ講座受講者の講座参加の振り返り、意見交換、今後について話し合い、活動へのフォローアップをすること目的とする。



【取組4-5】日本語ボランティア入門講座・ブラッシュアップ講座(栄区・戸塚区)

運営受託:(公財)横浜市国際交流協会



【実施した事業プログラム内容】

①入門講座:日本語ボランティア in 栄

<第1回>

地域日本語ボランティアとは

日本語支援の現状と意義について学ぼう

- ・地域日本語教育の流れ
- ・地域日本語ボランティアとは?
- ・事例から学ぶ日本語支援の意義
- ・日本語支援者と「やさしい日本語」
- ・多文化共創のための「日本語支援」

<第2回>

日本語っておもしろい!

- ・日本語の特徴を考えてみましょう
- ・「日本語」を少し詳しく見てみると...

<第3回>

人・社会とつながる日本語とは?

多様な日本語学習支援について考える

地域日本語教室の方との交流



【参加者の声】

日本語を「教える」というイメージから横並びの共に学び合う関係であるべきという印象が変わった。

一緒に生活する仲間として関わっていけるようになりたい

【成果】

講座全体を通して、多文化共生の視点や具体的な支援活動の例を取り上げることで、地域の日本語学習支援のイメージがつかみやすい内容となった。受講者からは「活動を始めてみたい」という前向きな声が多く聞かれ、活動への意欲形成に寄与したと考えられる。また、少人数での実施により、講師と受講者とのやり取りが丁寧に行われ、受講者一人ひとりの理解状況を把握しながら進めることができた。広報を通じて複数区から参加があったことから、地域に日本語学習支援に関心を持つ層が一定数存在することも確認できた。



【取組4-5】日本語ボランティア入門講座・ブラッシュアップ講座(栄区・戸塚区)

運営受託:(公財)横浜市国際交流協会

【実施した事業プログラム内容】

②ブラッシュアップ講座:日本語ボランティアブラッシュアップ講座
日本語教育の動きを知り、より良い教室づくりをめざそう!
～教材を見る目、使う力を養う～

- ・新たな日本語支援の流れを知る
～「できること」を大切にした実践～
- ・教材(生教材)を見る目、使う力を養う
～いきいきした教室づくり～
- ・楽しく、効果的な漢字学習に向き合おう
～「漢字は友だち！」にするには?～



【参加者の声】

教材選び・生活の中から学習の
ヒントを得て、教材に使えるも
のを考える習慣をつけたい

学習者にたくさん話してもらい、
自律的に学べるようにしたい

【成果】

講座では、身近な教材をどのように捉え活用するかを学び、活動経験者にとっては日頃の支援を振り返り、今後の活動に生かす視点を獲得する機会となった。実践者同士が経験や考えを共有することで、活動の具体像がより明確になり、支援の在り方を多角的に考える場ともなった。また、今回のブラッシュアップ講座は、多文化共生の視点から教材を見る目・使う力を養う内容であり、入門講座受講者にとっても参考になると考え、参加を促した。講師も両講座のつながりを意識した構成で対応してくださり、入門講座受講者が戸惑う様子はなく、むしろ既に活動している受講者との交流が生まれた。受講者からは、講座を通じて新たな気づきや活動への意欲が高まったとの声も寄せられ、地域における日本語学習支援の理解促進につながったと考えられる。



【取組4-5】日本語ボランティア入門講座・ブラッシュアップ講座(栄区・戸塚区)

運営受託:(公財)横浜市国際交流協会



【実施した事業プログラム内容】

③実践報告会:「講座に参加して、…」を話してみよう

- ・自己紹介(自己表現活動「わたしの好きなもの・こと」をもとに)
- ・講座の振り返り
(講座受講・活動開始時の動機・受講してみたの感想など)
- ・『「できた」のその先を考える』

～学習者に「何を教えるか」ではなく学習者の生活の中で「何につながるか」を考えながら関わる視点～

- ・未来の自分への一言

【成果】

実践報告会には活動経験の異なる参加者が集まり、講座の振り返りと『「できた」のその先を考える』のワークを通して、日頃の支援を見直す機会となった。学習者を見る視点を揺さぶる問いや事例を用いた構成により、活動への不安や迷いを整理し、今後の関わり方を考えるきっかけが生まれた。ボランティア同士が経験や思いを共有することで、自身の取り組みの方向性を確認できたとの声もあり、個々の思いが自然に表出する場としての意義が確認された。

【今後に向けて】

入門講座・ブラッシュアップ講座・実践報告会の一連の取組を通じて、受講者が「活動を始めてみたい」という段階から、「具体的に活動を考える」「実際の場面で活かしたい」と意識を深めていく様子が見られた。活動につながった人数だけでは測れない、受講者の意識変化を把握できたことは、今後の講座や実践報告会の在り方を検討する上で重要な示唆となった。また、地域には日本語学習支援に関心を持ち、社会とのつながりを求める方々が一定数存在することが確認でき、こうした方々が地域で活躍するきっかけを提供する意義が改めて認識された。さらに、未設置区での講座実施においては、実施区・教室・YOKEとの連携を強化しながら、より効果的な講座展開を図る必要性が示された。今後は、講座受講者が地域の日本語学習支援活動に参加しやすい仕組みづくりや、未設置区における関係機関との連携を強化していきたい。